

各 位

株式会社バローホールディングス
代表取締役会長兼 CEO 田代 正美

取引先とのデータ連携基盤「Fujitsu Supply Chain Data Service」の グループ導入について

皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当グループは、2024年5月14日に公表しました新中期経営計画にも記載のとおり、差別化戦略の柱として、商品在庫の効率的な配置をグループDXの次なる目標に掲げ取り組んでおり、とりわけグループ内の製造/流通会社および各取引先とのデータ連携の拡充がサプライチェーン全体の在庫最適化のみならず、物流改善や原価低減に寄与し、グループ競争力向上に繋がると認識しております。

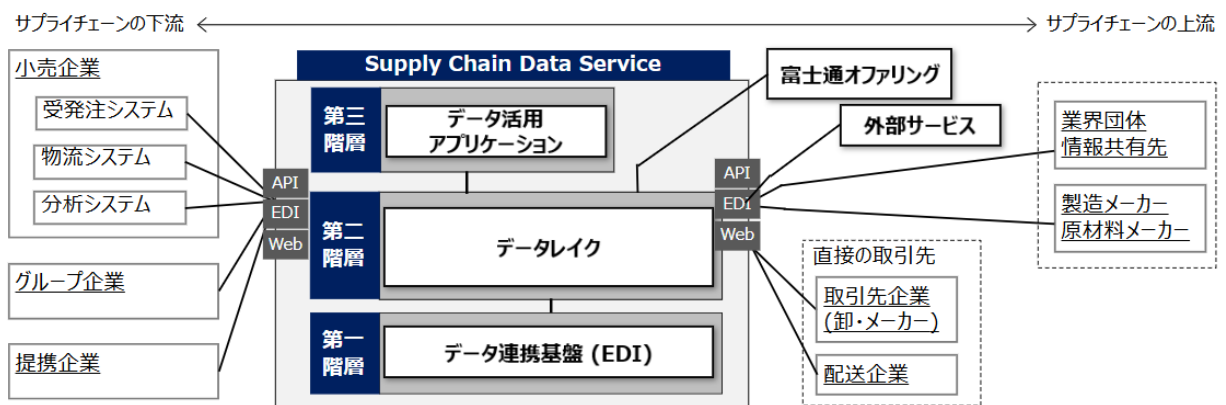
その一環として、富士通株式会社が提供するデータ連携基盤オファリング「Fujitsu Supply Chain Data Service」(以下 SCDS) を既存 EDI (電子データ交換) サービスの後継として、順次グループ各社に導入していくことを紹介させていただきます。

■導入の背景

当グループは小売会社のみならず、約 20 の製造・調達会社および自社物流網を有しており、相互の情報共有のもとサプライチェーンの最適化を図ってまいりましたが、物流をはじめとした今後のグループ外環境の変化も見据え一層進化していくためには、グループ内にとどまらず多くの取引先様との相互情報連携を強化する必要があると認識しております。

次世代の EDI (SCDS) はその中核となる機能であり、従来の受発注情報のみならず、販売・在庫・物流・需要予測など多様な情報の連携を想定しています。計画・構築にあたっては、既存 EDI サービスの提供元である富士通株式会社が、「物流情報標準ガイドライン」の策定に参画しデータ流通の標準化検討や要素技術研究に携わりつつ、業界横断データ基盤の検討を進めていたことから、当社のニーズと合致し、パートナーとしての選定に至りました。

■システムの概要



- ・「流通 BMS (ビジネスメッセージ標準)」や様々な業種・業界向け EDI など定義の異なるデータを変換・クレンジングによりデータ活用・分析の精度向上
- ・従来 EDI を通過するのみであった商流・物流データをデータレイクに蓄積するほか、API 活用によりアプリケーション・システム間での直接連携が可能
- ・企業や団体を越えてデータ共有するデータスペースとの連携を考慮した拡張性

■今後の予定

以下のグループ内企業の既存 EDI を順次 SCDS に移行していきます。

- ・株式会社バロー
- ・中部薬品株式会社
- ・アレンザホールディングス株式会社
(ダイユーエイト、タイム、ホームセンターバロー、アミーゴ)
- ・株式会社食鮮館タイヨー
- ・三幸株式会社
- ・中部フーズ株式会社
- ・中部ミート株式会社 (2025 年 2 月導入済)

以 上